

2010 年度 出身高等学校種別による性差に関する意識調査研究

出身高等学校種別による 性差に関する意識調査研究

教育学研究室 橋本紀子教授
保健養護専攻 巴三和・長沼愛



研究目的

- 1) 共学校、別学校の教育を受けた者には、それぞれ性差に関する特徴的な考え方が存在するのかを検討する。
- 2) 今後の男女別学校教育の在り方と課題を検討する。



研究方法

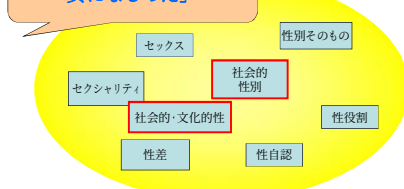
- 1) 関連資料及び文献の収集と検討
- 2) 埼玉県内の公立高校(共学校、男子校、女子校)での学校参与観察
- 3) 本大学の1・2年生を対象とした質問紙調査



I. 文献研究

ジェンダーとは

「人は女に生まれない。
女になるのだ」

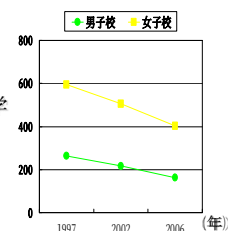


ジェンダーバイアスとは？



男女別学校減少の背景

- 法整備
 - 1947年 教育基本法、学校教育法成立
 - 1985年 男女雇用機会均等法
 - 1989年 高等学校「学習指導要領」の改訂
 - 1999年 男女共同参画社会基本法
- 男女別学校数の減少
 - 全国学校総覧 (1998, 2003, 2007版)



II. 質問紙調査

質問紙調査の概要

【調査目的】
共学校、別学校の教育を受けた者には、それぞれ性差に関する特徴的な考え方が存在するのかを調査するため。

【調査対象】

女子栄養大学の学生
栄養学部一部
実践栄養学科 1年生
保健栄養学科保健栄養専攻 2年生

【調査方法】

授業終了前に説明、配布、記入、回収を行った。

【調査期間】

平成22年11月8日～平成22年11月11日

【回収部数】

栄養学部一部 実践栄養学科 1年生 217部
保健栄養学科 保健栄養専攻 2年生 69部
計286部 (全無回答を除く)



質問紙調査の枠組み

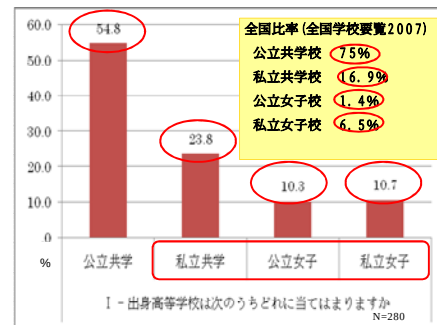
【調査の枠組み】

下記の通り、大きく11項目に分けて調査を実施した
([]内は質問番号)。

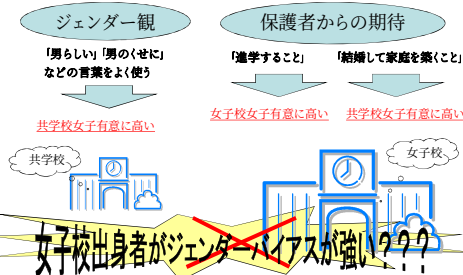
- [1]: 出身高等学校種別
- [2]: ジェンダー観、性別役割分業観
- [3]: 結婚観
- [4]: 就労観
- [5] [6]: 女子校、共学のイメージ
- [7]: 自らの性に関する肯定観
- [8]: 高校時代の悩み・心配事について
- [9]: 進路に影響を及ぼした人物
- [10]: 教員から受けた期待
- [11]: 保護者の就労形態
- [12]: 保護者から受けた期待



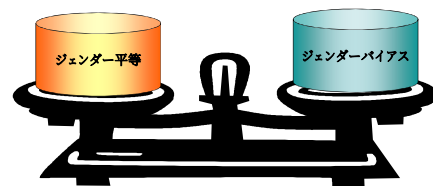
質問紙調査の結果と考察



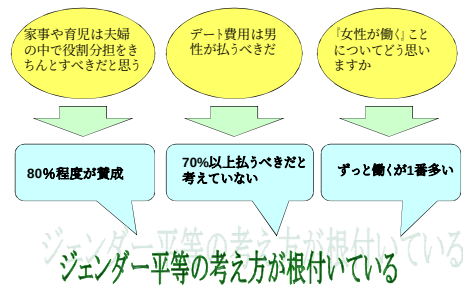
共学校出身者と女子校出身者で 有意差が見られた項目



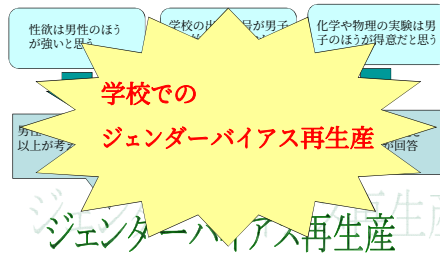
質問紙調査から見てきたのは...

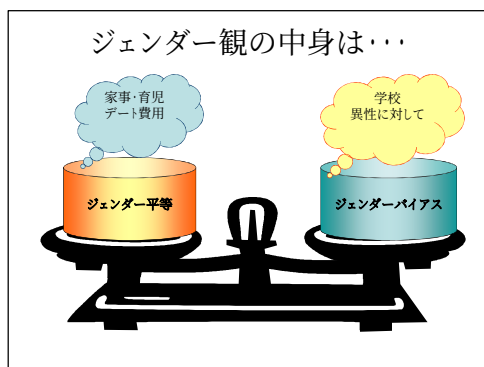


ジェンダー平等



ジェンダーバイアス

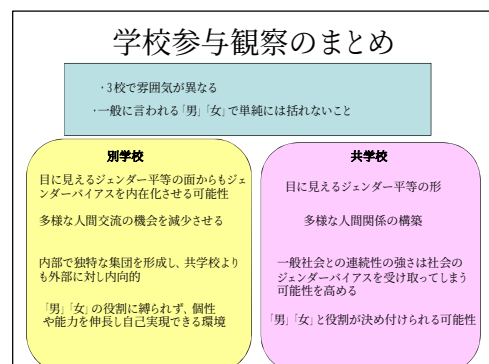
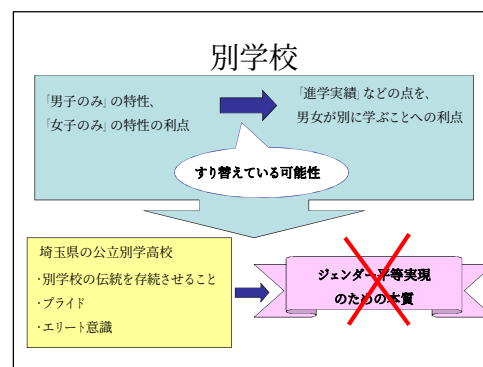
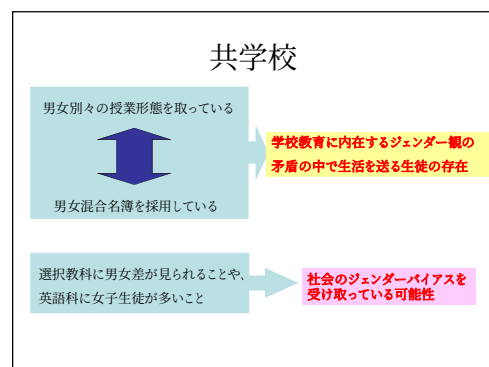




- ### 質問紙調査のまとめ
- ・出身高等学校種別による意識に関して、ジェンダー観や性別役割分業観に**大きな違いは見られなかった。**
 - ・調査対象者である現代の女子大生は「女性」であることを楽しみ、自由なライフスタイルを望むという面において、**ジェンダー平等意識が高かった。**
 - ・しかし社会や学校に深く根付いている**ジェンダーバイアスには、気付いていない。**

III、学校参与観察の結果と考察

- ### 学校参与観察の概要
- ・**参与観察学校**
- ①埼玉県立高等学校(共学校)
 - ②埼玉県立高等学校(男子校)
 - ③埼玉県立高等学校(女子校)
- いずれも埼玉県内では進学校とされている学校を対象とした。
- ・**日程**
- ①10月 9日(土)
 - ②10月 23日(土)
 - ③10月 30日(土)
- それぞれ学校説明会、学校公開日に参与観察を行った。



IV、最後に

